

木本誠二教授退官記念特集

序 に か え て

木本教授は、昭和 27 年東京大学医学部外科学第 2 講座主任教授に就任され、昭和 39 年胸部外科学講座の新設とともにその初代教授に転ぜられ、本年 3 月末定年制の申し合せにより退官された。

同教授がわが国血管心臓外科のパイオニアとして、内外にすぐれた業績を残されたことはいまさらいうまでもないが、16 年にわたるその在職期間を通じて、一般腹部外科、胸部外科、小児外科、代用臓器および理工学の医学的応用、さらに臓器移植などの多方面の研究を推進指導され、第 2 次大戦後新しい時代を迎えたわが国外科学界および医学界の第一人者としてめざましい活躍をされたことは、万人の記憶に新しいところである。

今回、本誌が木本教授のこのすぐれた業績を讃えて木本教授退官記念特集を企てたことはまことに意義の深いことである。

ここに集められた論文は、200 名をこえる同教授の門下生のうち、現在第一線で活躍中の 15 名の各大学教授、および東大第 2 外科教室、胸部外科教室における各研究グループの指導者が、それぞれの主要研究分野について執筆したものであつて、わが国外科学研究の最先端を示すものであり、木本教授の残された偉大な業績を伝えるものとして大きな価値をもつものであろう。

(東京大学胸部外科教授 三 枝 正 裕)